

## 令和元年度第2回岡崎市少年愛護センター運営委員会

日時	令和2年1月22日(水) 午後2時
会場	岡崎市役所東庁舎 7階 701号室
出席委員	
委員長	石川 優 (岡崎市社会福祉協議会長) 平松 文子 (岡崎市民生委員児童委員主任児童委員連絡会会長) 本多 順子 (学区女性団体代表(本宿学区代表)) 成瀬 眞佐子 (岡崎少年愛護センター地域指導員) 佐藤 正和 (子ども会育成者連絡協議会事務長) 永野 光雄 (岡崎市小中学校現職研修委員会生徒指導部長(矢作中学校長)) 伊澤 勉 (岡崎市小中学校現職研修委員会生徒指導部長(福岡小学校長)) 田中 宏明 (県立高等学校生徒指導部代表(岡崎高等学校教諭)) 河内 孝彰 (岡崎警察署生活安全課長) 林 優子 (一般公募) 宮澤 会美香 (一般公募)
欠席委員	天白 真順 (私立高等学校生徒指導部代表(岡崎学園高等学校教諭)) 安ノ井 宏隆 (西三河福祉相談センター児童育成課長)

事務局 中村 耕 社会教育課長、柴田 英代 社会教育課副課長  
社会教育課社会教育係 大村、中村  
少年愛護センター 大山、浦野

- 議題 (1) 少年愛護センターの令和元年12月までの活動報告について  
(2) 令和元年度岡崎少年愛護センター指導員大会について  
(3) 少年愛護センター条例施行規則の一部改正について  
(4) 最近の事例について

### (1) 少年愛護センターの令和元年12月までの活動報告について

配付資料に基づき、愛護センター職員より令和元年12月までの活動について報告した。

合計191名の指導員の協力の下、青少年の非行防止、愛護・善導の補導活動を行った。平成31年4月から令和元年12月までの実施回数415回、活動延人員1,858人、活動にあたり巡回した場所は合計2,764カ所。補導した少年の数について、声かけした少年の数には、1,595人、そのうち、現場指導は1,588人、危険行為や怠学・喫煙行為等の少年については、家庭、学校等への通報連絡をしており、通報連絡は7人。通報連絡の内訳は、平日の昼間にゲーム場にいた中学生の確認のための学校連絡が2件、平日の午前中に幼い弟と大型店のおもちゃ売り場にいた小学生女児の学校連絡が1件、大型店で迷子になっている幼児に対する店内警備員への連絡が3件。補導活動

と一言で言っても、声かけで注意を喚起する寄りそう補導、啓発的な見せる補導、喫煙や怠学行為等の少年への指導的補導、また、声かけの中から相談に乗るカウンセリング的な補導など、多岐に亘る。最近では補導中の喫煙に対する指導はほとんどなく、本年度も現在のところ1件もない。

少年相談については、センターへの来所による相談が14件、電話相談が17件、合計31件の相談がありました。相談者の約半数が母親からだが、孫の行動とそれに対する親の対応が心配で相談してくる祖父母もいた。相談内容の多くは、小中学生対象の家庭でのしつけの問題や学校での友達とのトラブルなどで、教員としての経験をもとに助言を行ってセンター内の処理で済む事例が多い。内容によっては、他の専門機関を紹介することもある。

地域別の被害発生状況について、平成31年4月から令和元年12月の期間に56件の被害報告があった。特に多い学区は南中学区や竜海中学区、甲山中学区。不審者の中では、ナイフや鉄パイプなどの危険物を所持していたり実際に殴られたりするなどの被害を受けた事例もあり、徐々に悪質化していく傾向があるので、今後もさらなる警戒が必要である。年度別の小中高別被害状況について、被害件数は年々減少しているが、高校生については昨年と同程度。不審者の報告が最も多く、声かけや後をつけられるなどで、女子生徒への痴漢行為がそれに続く。

少年愛護センターも街頭補導や被害状況の情報提供、少年愛護の啓発活動を継続的に展開していく。

(2) 令和元年度岡崎少年愛護センター指導員大会について

配布資料に基づき、事務局から岡崎少年愛護センター指導員大会について説明。

(3) 少年愛護センター条例施行規則の一部改正について

配布資料に基づき、事務局から少年愛護センター条例施行規則の一部改正について説明。

(4) 最近の事例について

今年度の相談事例について、それぞれ委員の立場から意見交換を行った。

【事例】

事例について説明

【意見】

- ・ 外国人の子供について、入学するところまではいいが、その後授業についていくのが大変なケースが多く、学校で不登校になっている子も多いと聞いており、難しい問題だと思う。
- ・ 子供も困っているが親御さんも支援が必要だと思う。子供は学校で支援できるが、大本は親を変えていくことが一番大事なので、親の支援をして行けたらなと常々思っている。
- ・ 西尾の方はとても外国籍の方が多く、やっぱり親御さんの意識が違って、学校に行かなくてはいけないとは考えていない人も中にはいる。西尾市は入ってみると2ヶ月か3ヶ月、日本語を教える講座をやっているようだがその間でしゃべれるようになれず、訪問してもコミュニケーションがとれず、苦労しているらしい。
- ・ 知り合いに外国籍の子供がいるが、授業についていけないので不登校になって

いる。親も共働きをしていて生活で手いっぱいのように子供のことも気になっているはずだが、外国人を支援している機関のことを知らないのではないか。介入するのは難しいが、学校からお知らせをしたら良いのではないか。

- ・ 外国の子供だけでなく、日本の子供でも同じで、親子セットで手を差し伸べてあげないといけないのではないか。
- ・ 岡崎市も外国籍の人口が増えてきて、いろいろな問題が出てきて実際に本腰を入れて対応していかななくては行けないと、生活をしていて感じる。以前、高校生くらいの子をホームシェアで受け入れたことがあるが、学校以外はすごく消極的で家にずっといるような子だった。しかし、日常生活の小さいことの積み重ねでどんどん自信をつけていき、最終的には日本語能力検定 3 級を取得し帰国した。どんな些細なことでもいいので自信をつけさせてあげることが大切だと思う。

寄せられた貴重な情報や意見を、今後の街頭補導や少年相談で活かし、青少年の健全育成に繋げていく。